

平成 30 年度医療機能分化連携推進事業について

山口県地域医療構想の実現に向け、効率的で質の高い医療提供体制を構築していくため、既存病床の回復期病床への転換のための施設・設備整備や急性期機能の集約・強化のための施設整備について、地域医療構想調整会議において、地域の目指す方向性との整合を確認した上で、県として支援を行う。

1 対象事業者

病床を有する医療機関

2 支援対象

【回復期施設整備】 ※H29～継続

対象	回復期病床への転換に必要な施設の増改築・改修に要する工事費等
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の増改築に伴う病室の整備 ・既存病室の改修（多床室の個室化等） ・リハビリを行う機能訓練室の整備 ・廊下幅の拡張

【回復期設備整備】 ※H27～継続

対象	リハビリを行うための治療機器や訓練機器等の導入経費
事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・物理療法を実施するための、超音波治療器や温浴療法用装置の導入 ・運動療法を実施するための、昇降練習用階段や平行棒、エアロバイクの導入

【急性期施設整備事業】 ※ 新規

対象	圏域の課題解決に資する急性期機能の集約・強化に必要な施設の増改築・改修に要する工事費等
事業例	・病棟の増改築に伴う救急救命室・手術室・検査室等の整備

3 支援要件

(1) 回復期施設・設備整備

- ・医療機関の所在する地域の地域医療構想調整会議における合意を得ること
- ・既存病床から回復期病床への転換であること
- ・転換後の回復期病床は、地域包括ケア病棟又は回復期リハビリテーション病棟として届出を行うこと
- ・事業実施以降の直近の年度の病床機能報告で、病床機能の変更を報告すること

(2) 急性期施設整備

- ・医療機関の所在する地域の地域医療構想調整会議における合意を得ること
- ・急性期病床数を削減すること
- ・地域の急性期機能を集約すること（地域の中核病院に同機能がある場合）
- ・圏域の課題解決に資する急性期機能の集約・強化（急性期病床数の削減）

4 交付額の算定方法

- (1) 別表の第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額を比較して少ない方の額を選定する。
- (2) (1)により選定された額と総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額に1/2を乗じて得た額を交付額とする。

〈別表〉

1 事業名	2 基準額	3 対象経費	4 下限額
回復期施設整備事業	(1)新築、増改築の場合 転換する回復期病床 1床当たり 5,020千円 (2)改修の場合 転換する回復期病床 1床当たり 3,508千円	回復期リハビリテーション病棟又は地域包括ケア病棟の建設や機能訓練室の整備等、回復期病床への転換に必要な施設の新築、増改築、改修に要する工事費又は工事請負費	—
回復期設備整備事業	1施設当たり 10,800千円	リハビリのための治療機器や訓練機器など、回復期機能を強化するために必要な医療機器等の備品購入費	1品につき 33千円
急性期施設整備事業	1平方メートル当たり 224.3千円	急性期機能の集約・強化に必要な施設の新築、増改築、改修に要する工事費又は工事請負費	—

総合病院山口赤十字病院の病棟建替えについて

総合病院 山口赤十字病院

1 建設計画等の概要

(1) 建替え工事の内容

(単位: m²)

既存建物 建物名	工事概要	建替え後建物	
		建物名	内容
南病棟	建替え (解体→新築)	北病棟 (接続棟を含む)	1F~3F: 外来、救急、放射線、リニアック、検査、薬剤 内視鏡、透析、化学療法、リハビリ等
厚生棟			4F、5F: 病棟、HCU
ライナック棟	改修等	(多目的棟)	会議室、訪問看護センター等
東病棟		同左	1F: 外来、売店、2F: 手術室、3F~8F: 病棟
旧看護師寮		同左	職員更衣室、倉庫等
旧看護学校	改修	同左	事務部、倉庫等
人間ドック棟、食堂棟	解体		
管理棟			

① 北病棟 (新築)

- ・延床面積 約 14,000 m² (見込み: 既存病棟との接続棟を含む)
- ・建物の構造 鉄筋コンクリート造 (6階建) 及び一部鉄骨造: 耐震構造

② 東病棟 (改修)

- ・施工面積 約 900 m² (見込み)

(2) 病床数

377床 (東病棟 273床、北病棟: 新病棟 104床)

2 病棟建設全体のスケジュール

工事等	年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
トピックス					8月 ◎東京オリンピック		
建築設計 (北病棟等)	基本設計		実施設計				
建築工事			[長期間の横線]				
北病棟新築工事				[横線]			
改修・解体工事			[東病棟一部改修 旧看護学校改修]		[東病棟改修、厚生棟・南病棟解体等]		
外構整備				[]		[]	[]

平成 30 年度医療機能分化連携推進事業（急性期施設・設備整備）
の実施希望について

○ 概 要

医療機関名	総合病院 山口赤十字病院	医療 圏名	山口・防府
整備目的			
圏域の課題	<p>○高度急性期、急性期機能についての集約化、役割分担・相互連携 ・医療機関が担う医療機能の集約化を進めるとともに、医療機関間の役割分担・相互連携による医療提供体制の整備が必要。</p> <p>○高度急性期機能や救急医療等について、萩保健医療圏の補完 ・脳血管疾患などの疾病について、三次救急医療機関が配置されていない萩医療圏を補完する体制の整備が必要。</p> <p>【萩医療圏での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科疾患、小児疾患、脳疾患など、専門的な疾病・事業が不足 ・脳血管疾患への対応の充実強化が必要。 <p>○小児救急医療体制の整備 ・休日・夜間の小児医療に対応するため、小児医療体制の充実強化が必要。</p> <p>○産科医療機関の減少 ・産婦人科医療提供体制の整備・充実等が必要</p>		
地域で担う役割	<p>【趣旨等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療を含めた急性期医療を担う地域の中核医療機関の一つとして、また、各診療科にわたり認定医・専門医を備えた総合的な医療機能を有する医療機関として、地域において、その役割を担うとともに、周産期医療や小児救急医療において、圏域を超えた役割を担う。 ・かかりつけ医等の後方支援を担う地域医療支援病院として、医療施設機能の体系化を通じ、地域の医療機関との連携体制の構築による地域医療確保の支援を行うとともに、地域医療支援病院が置かれていない萩圏域を補完する役割を担う。 ・今後、高齢化の進行による高齢患者の増加や人口減少による患者数の減少をはじめ、地域医療構想の本圏域における課題等を踏まえ、限られた医療資源の中、将来の医療需要に対応し持続可能かつ効率的で質の高い医療提供体制の確保を図るため、萩圏域の補完を含め、地域における本院の役割と強みを活かした、医療機能の充実強化を図る。 		

地域で担う役割

【課題に対する当院の役割】

○高度急性期、急性期機能についての集約化、役割分担・医療連携及び萩保健医療圏の補完

(脳血管疾患患者等の対応の充実強化)

- ・高齢化の進行に伴い増加が予想される脳血管疾患患者については、今後、当医療圏だけでなく、萩医療圏等からの医療需要が高まると予測されており、常勤の脳神経内科医及び脳神経外科医の複数配置、救急部門との連携、HCUの増床、高精度検査機器（128列CT、3テスラMRI）の導入等による脳疾患患者に対する診療機能の充実強化を図る。
- ・内視鏡外科手術については、低侵襲性で在院期間の短縮による早期の復帰を可能とし、圏域内で相当の手術実績を有しており、今後、萩圏域を含めた地域の医療ニーズに的確に対応し、より迅速かつ安全で高度な手術を実施するため、高精度検査機器（同上）の導入による手術精度の向上等、内視鏡外科手術センターの充実強化を図る。

(萩圏域を補完する地域医療支援病院としての役割の強化)

- ・萩圏域を補完する地域医療支援病院として、萩圏域の患者に対する診療実績や、会議や研修・研究会の開催、出張講座等による支援を通じて、当院の登録医師の確保を図り、医療連携を進めるとともに、診療所のない高度な検査機器（CT・MRI等）の共同利用等により、萩圏域において不足する医療機能充足の一翼を担う。

○小児救急医療体制の充実強化

- ・小児救急医療拠点病院として、受入体制の強化を図るとともに、「夜間こども急病センター」を設置し、一次救急から二次救急へ切れ目ない小児救急医療体制の整備充実を図る。
- ・小児患者に対する感染対応エリアの設置等、小児診療部門の充実強化を図るとともに、診療連携を必要とする耳鼻咽喉科及び皮膚科を小児科に隣接設置し、小児医療についての院内拠点化により、小児救急患者への迅速かつ的確な対応を図る。

○産婦人科・周産期医療機能の充実強化

- ・地域周産期母子医療センターとして、産科・新生児診療機能を備え、周産期に係る医療を行うとともに、総合周産期母子医療センターや地域周産期医療関連施設等と連携を図り、入院及び分娩に関する連絡調整を行う等、地域における周産期医療対策の中核的な役割を更に進める。
- ・また、産婦人科の専門医や乳腺外科の専門医など体制が充実していることから、周産期医療に加え、女性のライフステージに応じたトータルケア等の充実により、女性医療センター機能を設けるなど、女性医療提供体制の充実強化を図る。

<p>整備の必要性</p>	<p>地域医療構想における課題等を踏まえ、救急医療を含め、圏域を超えた地域医療を担う中核的医療機関として、地域に必要な医療提供体制を確保するため、当院の地域で担う役割の充実強化に向けた施設・設備を整備する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度急性期、急性期機能についての集約化、役割分担・医療連携及び萩保健医療圏の補完 <ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患患者等の対応の充実強化 萩圏域を補完する地域医療支援病院としての役割の強化 小児救急医療体制の充実強化 産婦人科・周産期医療機能の充実強化
<p>その他 (病床削減や機能集約化の考え方等)</p>	<p>○圏域等での人口減少を見据えた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 山口・防府保健医療圏の人口減少を見据え、既存の患者需要に対応した機能を維持しながら減床を図るとともに、将来的な患者数の減少にも柔軟に対応できる病棟構成を図る。 <p>○必要とされる病床機能の確保・誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域等における、当院としての役割や今後の患者動向を踏まえ、特色ある機能を強化（集約化等）するとともに、新たに回復期病床を設置する。 病床機能等については、高度急性期及び急性期機能を減床（▲142床→H30：48減床済、H34～94減床予定）、回復期機能を増床（44床）し、将来的に377床の予定。 これらにより、他の医療機関の回復期への病床転換を誘導し、地域医療構想の達成に向けた病床機能の連携を進める。 <p>○圏域での必要病床数達成のための貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 当院の圏域での病床割合（12.5%：475床／3,797床）から、地域医療構想実現のための病床配置の寄与率（12.4%：▲98床／▲789床）により、当院は病床規模に応じた役割（減床）を達成予定。
<p>整備概要</p>	
<p>事業実施期間</p>	<p>【事業全体】 (着工) 平成 31 年 3 月 ～ (竣工) 平成 34 年 12 月 (予定)</p> <p>【施設整備（東病棟改修工事）】 (着工) 平成 31 年 3 月 ～ (竣工) 平成 33 年 12 月 (予定)</p> <p>【設備整備】 平成 32 年度～平成 33 年度</p>
<p>事業の種別</p>	<p>新築 ・ 増改築 ・ 改修 ・ 設備</p>

整備内容	<p>【施設整備】</p> <p>○ 東病棟改修（本事業対象工事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療部門改修範囲 約 400 m²（見込み） <p>〈小児（救急）医療の充実強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児科（感染対応エリア等の設置） ・ 耳鼻咽喉科、皮膚科の隣接設置 <p>〈産科、周産期医療の充実強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科（診療部門の拡充等） ・ 女性医療センターの設置 <p>【設備整備】</p> <p>○ 急性期医療の充実強化（本事業対象設備）</p> <p>〈小児（救急）医療の充実強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療機器の整備 <p>〈産科、周産期医療の強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科医療機器の整備 <p>〈菟園域を補完する脳疾患患者への対応強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳疾患患者に対する診療機能の充実・強化に必要な医療機器の整備 <p>〈菟園域を補完する地域医療支援病院の充実強化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度医療機器等の整備 高精度検査機器（CT：128列、MRI：3テスラ）の設置
その他	

○ 事業費（補助対象）

約5億円（うち施設 約1億円、うち設備 約4億円）

○ 病床数

(単位 床)

	現時点での病床数	完成後予定	増減
高度急性期	155	119	▲36
急性期	272	214	▲58
回復期		44	44
慢性期			
休棟等			
計	427	377	▲50

病床機能報告における病床数

(単位 床)

	H29 病床機能報告	完成後報告予定	増減
高度急性期	155	119	▲36
急性期	272	214	▲58
回復期		44	44
慢性期			
休棟等	48		▲48
計	475	377	▲98

(完成後の「病床数」と「病床機能報告における病床数」が異なる理由)

